

第10回藤沢市地域経営戦略100人委員会

と き 2010年(平成22年)6月5日(土)
午後2時～4時30分
ところ 長後公民館体育室

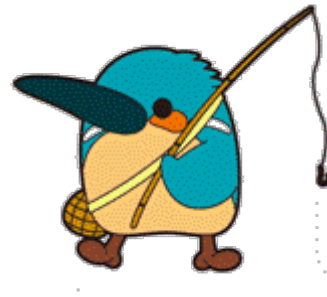
次 第

- 1 開会
- 2 基本計画の検討について
- 3 重点・ふじさわ未来課題の分析と目標・指標設定について
- 4 その他
- 5 閉会

事務局
藤沢市経営企画部経営企画課
電 話 (0466) 50-3502
ファクス (0466) 50-8402
e-mail kikaku@city.fujisawa.kanagawa.jp

重点・ふじさわ未来課題と

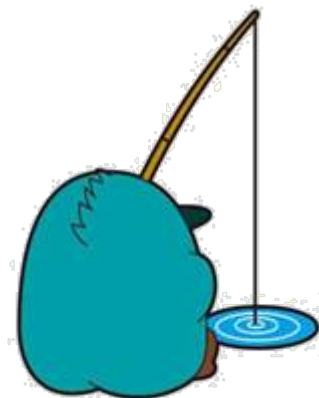
「目標」「指標」「活動」の検討について



2010年（平成22年）6月5日

地域経営戦略100人委員会（Team238）

前回までのおさらい



「ふじさわ未来課題」

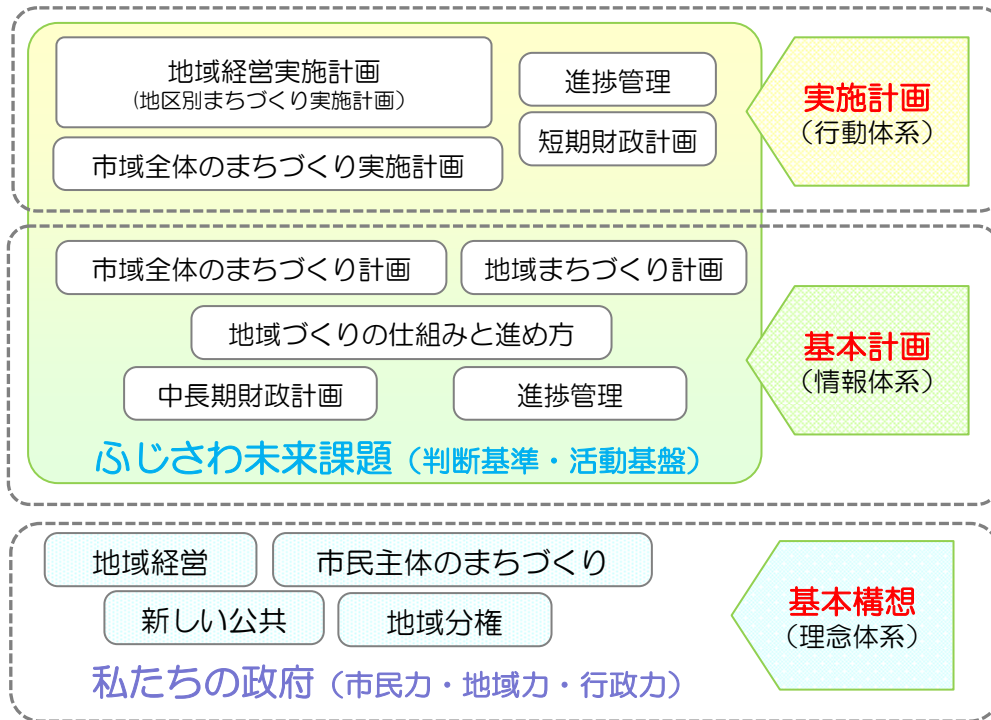
(※課題とは＝改善すること&伸ばすこと)

- ① 将来像“いまも未来も住み続けたいまち「湘南ふじさわ」”を実現するための「課題」
- ② 基本構想で掲げた「藤沢づくりのめざす方向性（9つ）」に取り組む際の「課題」

前提として

- 1. 理念（基本構想）を行動（実施計画）をつなぐ、**情報体系（基本計画）が必要**
- 2. 各地区での行動と全市の行動の相乗効果を促す、**藤沢づくり（藤沢のまちづくり）の共通基盤が必要**
- 3. 行政だけでなく、生活者にも地域にも、**まちづくりを考えやすくする入口が必要**

【地域経営を進めていく仕組みとプロセス】



基本構想で掲げた「藤沢づくりのめざす方向性」

- 1. 地域自律型の「藤沢づくり」を育むまち
- 2. 明日の藤沢を担う「藤沢の子どもたち」を育む環境
- 3. 市民力・地域力による安全で安心して暮らせるまち
- 4. 共に生き、共に創る地域社会の創出
- 5. 豊かな地域資源の次世代への継承・発展
- 6. 地球温暖化防止など未来の地球環境への投資
- 7. 「藤沢づくり」を支える都市構造の再構築と地域経済の活力再生
- 8. 公共資産の維持管理と有効活用
- 9. 「藤沢ライフスタイル」と「湘南カルチャー」の創出

2. 「ふじさわ未来課題」の作り方

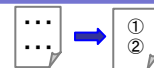
① 丹念に「気づき（活動実感・生活実感・行政実感）」を収集（11-1月）



- ・ 気づきアンケート13,400件回収（有効回答12,365件）
⇒ 発言数：42,095発言
- ・ 100人委員会と地域経営会議による調査、庁内プロジェクトやわいわい・がやがや・わくわく会議の調査、ワールドカフェのログ、電子会議室や藤沢DPでの発言、市民活動団体の活動理念調査、過去の各種調査…等から収集

↓ 発言集約の準備

② 藤沢の「未来の状態」として表現を整理（2-3月）



- ・ 様々な発言を集約しやすくするために、元の文章より、藤沢の「未来の状態」としての箇条書きに整理
⇒ 抽出数：59,119件

↓ 類似発言の集約

③ 類似の発言をまとめた「未来課題の種」の作成（3月）



- ・ 類似の発言を束ねる作業を行い、その共通性を確認し、抽象度を高めた「未来課題の種」を検討して集約
⇒ 集約数：450件

↓ 藤沢づくりを見据えてさらに整理

④ 「藤沢づくりの方向性」と結び付ける「マトリックス」に分類（3月）

	1	2	3	4	5	6	7	8	9
A									
B									
C									
D									
E									
F									

- ・ 「未来課題」を藤沢づくりの方向性を結び付ける「マトリックス（集約表）」の検討（第6回100人委員会@2/27）
- ・ 450件の「未来課題の種（気づきの集約）」を「マトリックス」に分類（第7回100人委員会@3/27）

↓ 内容の確認

⑤ 「ふじさわ未来課題」へと集約→確認・修正（4月）

- ・ 「マトリックス」の各マスごとに類似するものを整理し、集約
- ・ 各列・各行ごとに整理・配置確認・集約
- ・ 象徴的なフレーズに調整 ⇒ 「ふじさわ未来課題（案）」：88項目
- ・ 表現内容の確認と修正意見の提出（第8回100人委員会@4/18）



100人委員会での修正意見等に基づく確認・修正
⇒ 「ふじさわ未来課題」：83項目

↓
「ここに重点！未来へのステップ調査」
「ふじさわ未来課題」を重み付け（メリハリづけ）をするための市民15,000人を対象とした調査
（地区ごとの人口分布・年齢に基づく無作為抽出調査）

3. 「ふじさわ未来課題」の整理

【ふじさわ未来課題の整理表を作成】

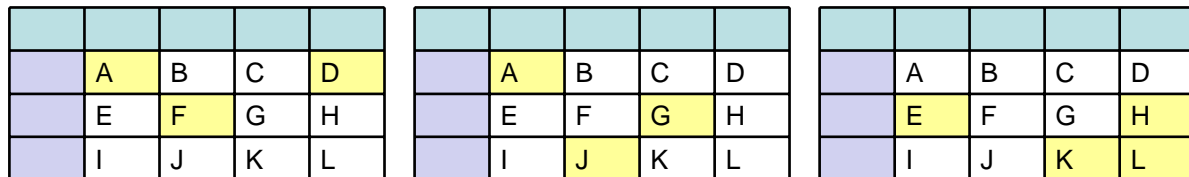
地区・領域から集めた生活実感・活動実感、行政実感を、相乗効果が出るように活用するために、一つの枠組みに整理する(深掘り時に活用するために、もとの発言や出所がわかるようにしておく)



【地域ごとのメリハリ】

全市調査を行い、地域ごとにメリハリ付けをする
 ※ ここに重点！未来へのステップ調査(実現度・充足度調査を実施)

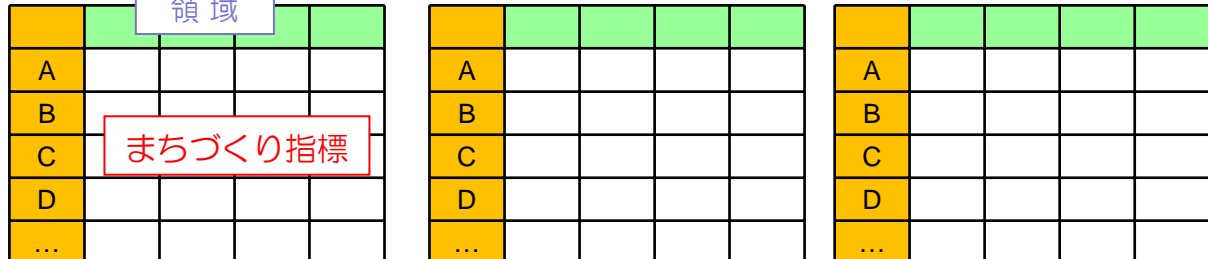
全市版 ↓ 13地区版



【まちづくり指標の設定】

“気づき”の深掘りを経て、「ふじさわ未来課題」に取り組む際の「まちづくり指標」を設定する

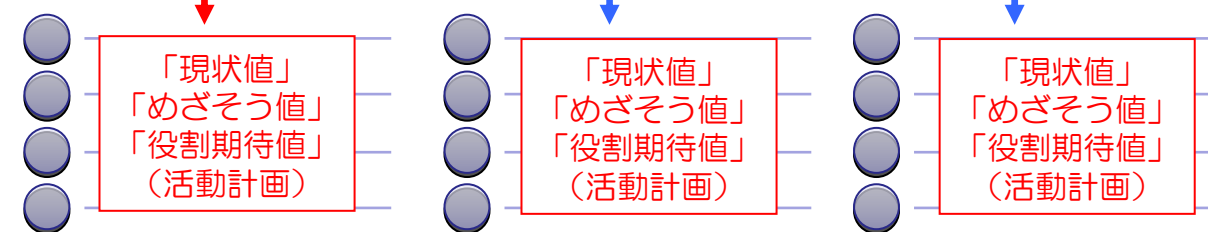
ふじさわ未来課題



【指標達成への取り組み方を設定】

「まちづくり指標」の目標設定とその達成に向けた主体と活動の計画を設定

まちづくり指標



将来像の実現に向けた、様々な人や団体の協働による実践活動へ

4. 「ふじさわ未来課題」のメリハリ付け

－「ここに重点！未来へのステップ調査」（重要度・充足度調査を実施）－

【方法】

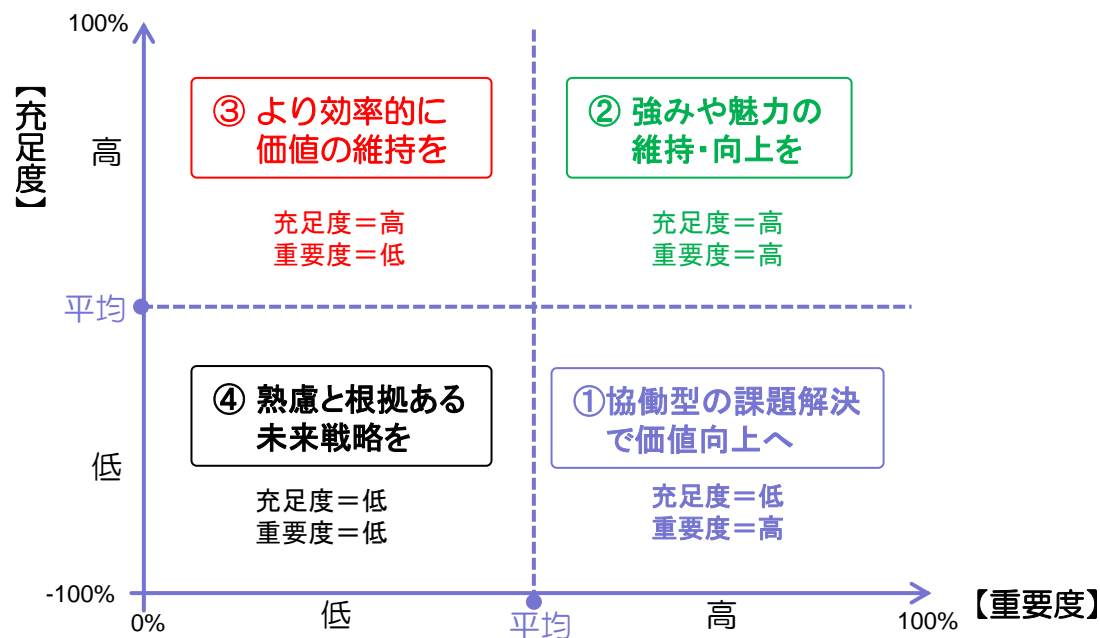
1. 「ふじさわ未来課題」の各項目ごとに『**充足度**（どのくらい実現できているか）』と『**重要度**（大切と感じているか）』を算出（地区単位・全市単位）

充足度＝（（「よくできている」の回答数×2＋「だいたいできている」の回答数）

－（「あまりできていない」の回答数＋「できていない」の回答数×2））÷回答総数

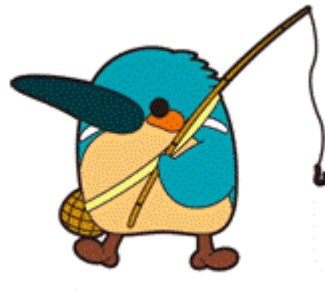
重要度＝「大切なこと」として選択された割合（重要選択率）

2. 「充足度－重要度グラフ（下図）」に「ふじさわ未来課題」を配置し、分類を作成。



今日の作業内容

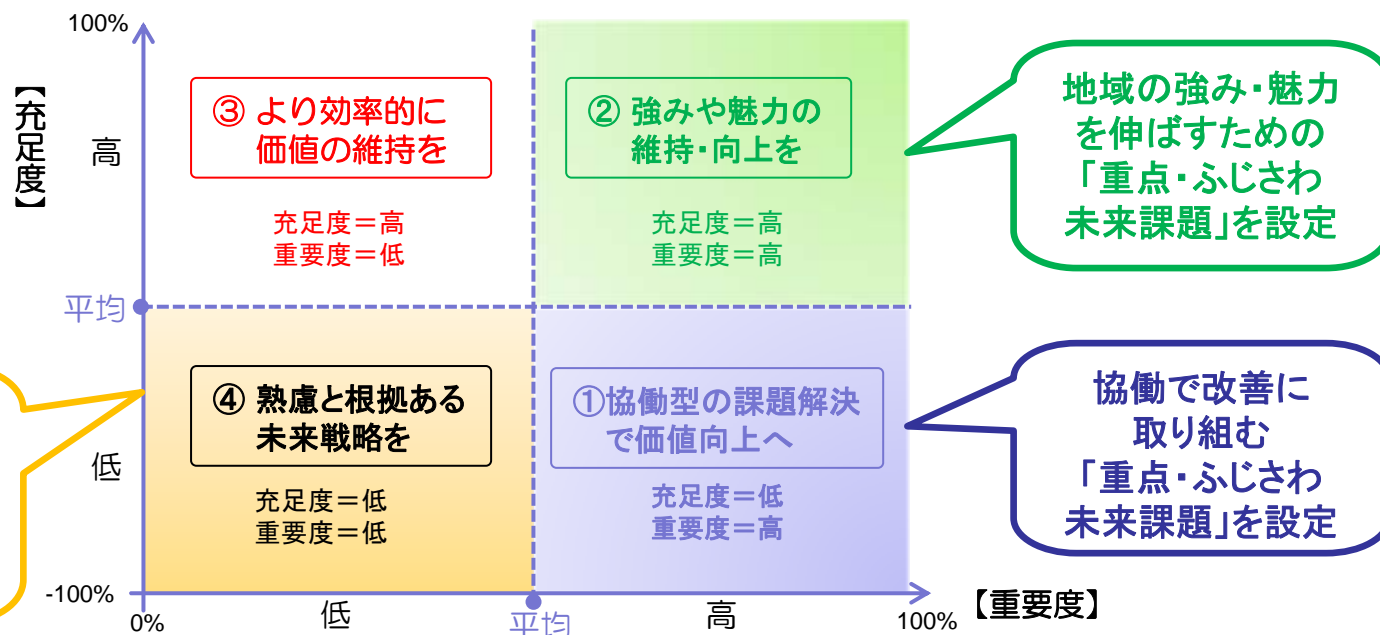
重点・ふじさわ未来課題の
地域・市域の「目標」「指標」「活動」を検討する



0. 「重点・ふじさわ未来課題（重点課題）」の設定

ふじさわ未来課題の重み付けを参考に、地域・市域で注目すべき「未来課題」を検討しました。

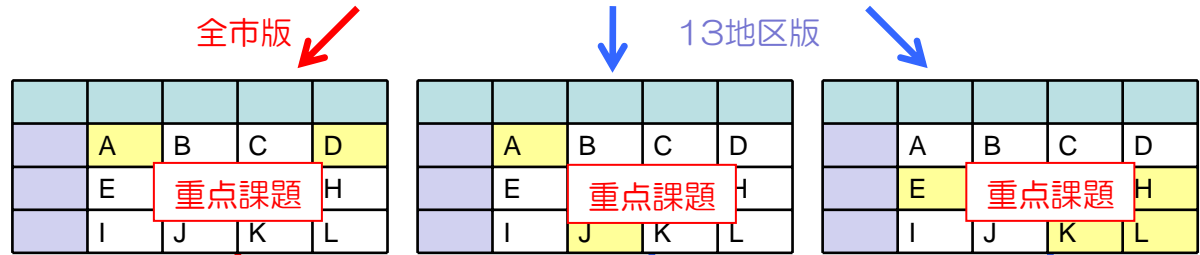
- (1) ①協働型の課題解決で価値向上へ ②強みや魅力の維持・向上を → 「重点・ふじさわ未来課題」として設定
- (2) ④熟慮と根拠ある未来戦略を ③実感の積み上げからは出にくい課題 → データや根拠を明確にした上で、数を絞って、「重点・ふじさわ未来課題」として設定



【ふじさわ未来課題の整理表を作成】
(4/18)

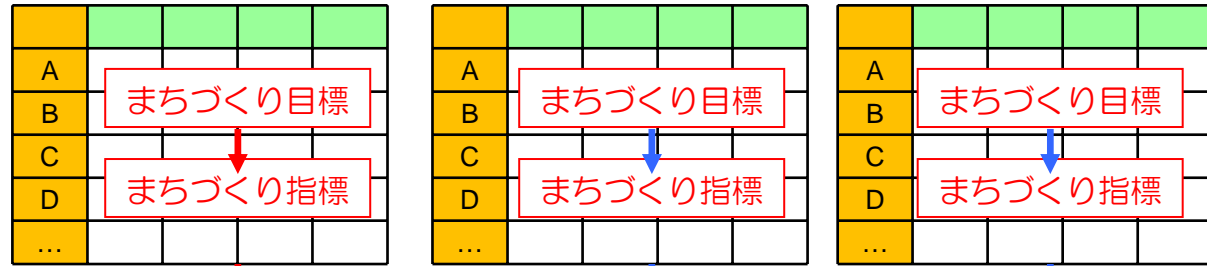
	ふじさわ未来課題			

【市域・地域のメリハリ】
(5/16)

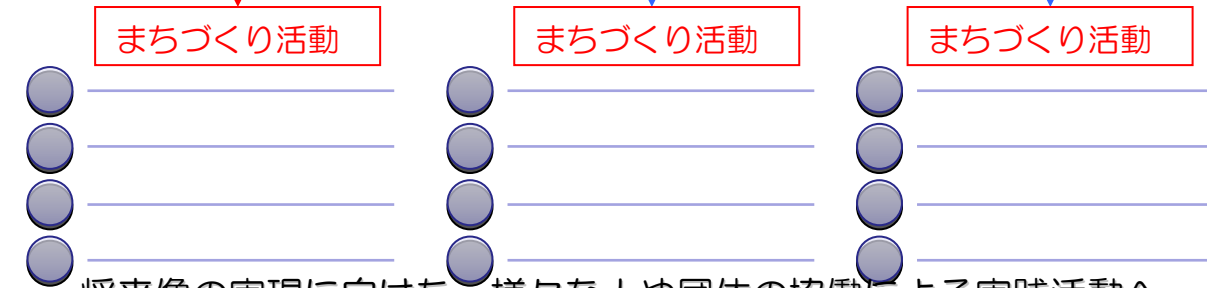


藤沢市をあげて「未来課題」を実現するために
地域・市域の「目標」「指標」「活動」を検討

1 【まちづくり目標と
まちづくり指標を設定】



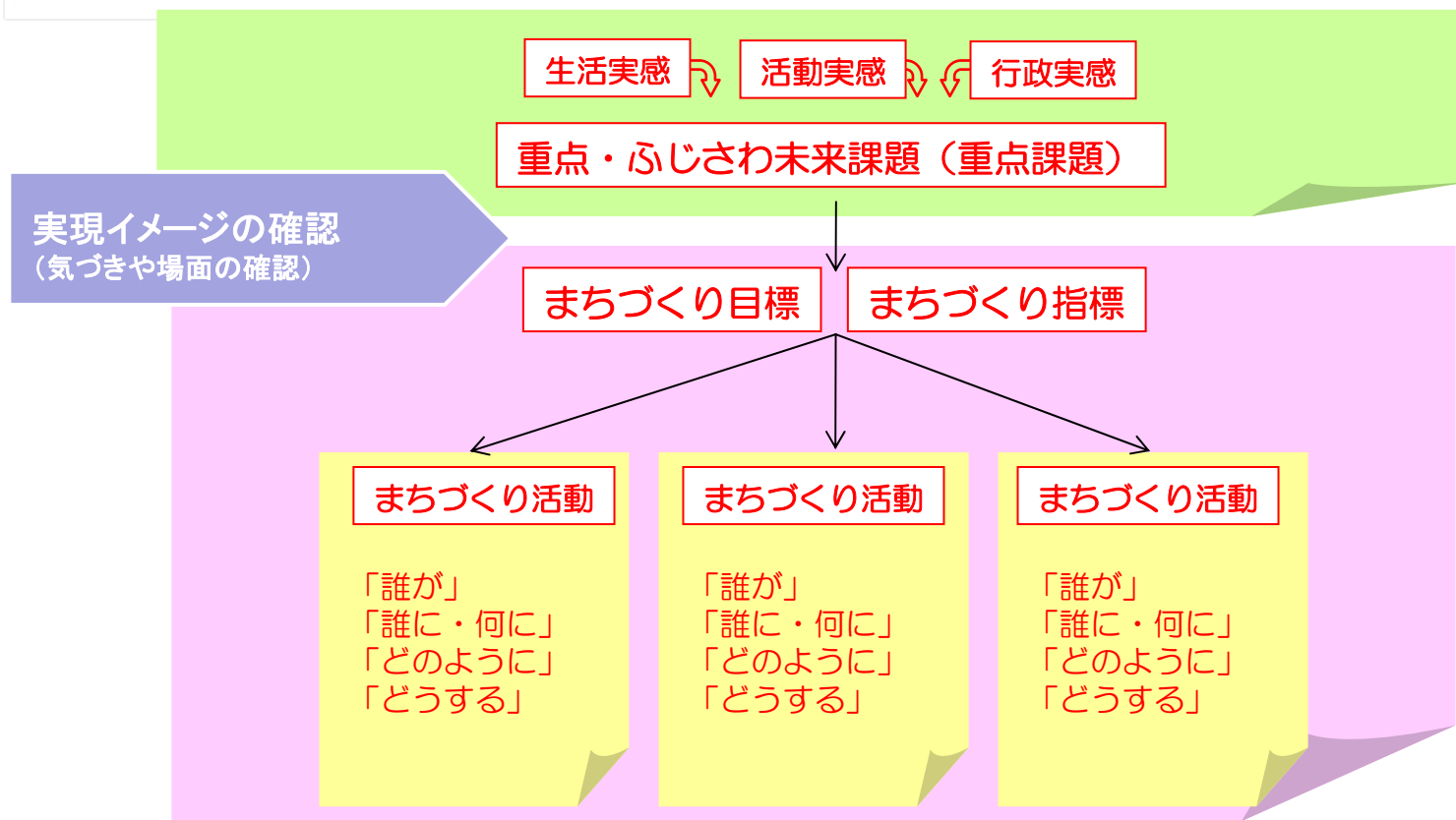
2 【まちづくり活動を設定】



将来像の実現に向けた、様々な人や団体の協働による実践活動へ

- ◆「まちづくり目標」・・・「重点・ふじさわ未来課題」を実現するには、**各地域や市域**において「**どういった状態が実現したら良いか**」を記載したもの
(地域や領域の**現状(気づき等)**を確認の上、地域や領域なりの表現で設定する)
- ◆「まちづくり指標」・・・「まちづくり目標」が**実現しているかどうか**を評価するための指標
(地域や領域での**具体的な場面を確認**の上、「まちづくり目標」を指標に置き換える)
- ◆「まちづくり活動」・・・「地域まちづくり目標」を実現するための**活動**
(実施計画で事業や活動を検討するため、ここでは“**達成すべき状況**”を列挙しておく)

各地区のものは：
「地域まちづくり目標」市域全体のものは：
「戦略目標」と呼びます。



◆方法



- ・ 「目標・指標・活動シート」を使用します。
- ・ “気づき”の発言集やデータベースを活用します。
⇒ これまでに集めた“気づき”を手掛かりに、
「重点・ふじさわ未来課題」の背景や具体的な状況を検討します。
- ・ グループ内で、“気づき”から得られた視点や新たに発見した事柄を話し合います。

◆ 手順



- (1) 「重点課題」に関わる“気づき”を確認する。話し合う。
- (2) “気づき”などを手がかりに「実現イメージ」を検討
重点課題の「実現イメージ（実現されている状態）」を検討します。
- (3) 「まちづくり目標」を設定
(2) をもとに「まちづくり目標」としてふさわしい表現を検討します。
- (4) 「まちづくり指標」を設定
(3) が実現しているかを評価するための指標を検討します。
- (5) 「まちづくり活動」を設定
(4) 「まちづくり指標」を改善することができる活動を検討します。

5. 検討活動の例（1）

－目標・指標・活動シートより－

<p>ふじさわ未来課題（重点課題）</p> <p>No 19 治安の良い環境であること</p>	<p>めざす方向性</p> <p>No (3) 地域力・市民力による安全で安心して暮らせるまち</p>
<p>“気づき” ▼データベースや発言集から気になった点</p>	
<p>キーワード 「見守り」「親切」「挨拶」「安全」…</p> <p>気づき データベースや発言集を検索 挨拶をすることが親切であったり、親切に感じられる。親切に声かけをし、見守ってくれる。こどもが危ない場面にならないよう気配りがある…など</p> <p>気づきの深堀 (場面・原因・背景) “気づき”は どういう場面で起きているか？ どういう原因・背景があるか？ 道を譲ってくれたとき 見回りの活動を見たとき 挨拶をしているのを見たとき こどもが事故にあったことがあった 信頼関係ができてい どこの人かわかっている 隣近所が仲良い</p>	<p>①「未来課題の種」などを参考に、その地区・領域なりのキーワードを検討</p> <p>②データベースや発言集でキーワードを検索・確認し、地域・領域の実情に関連して特に気になった“気づき”を抽出（ポストイットに）</p> <p>③“気づき”などを眺めながら意見交換をして、どういった場面でその気づきが指摘されたのかその背景にある原因・背景は何か…を検討する（ポストイットに書き出す）</p> <p>★「②気づき確認」「③深掘り」は、あくまで、考える・話し合うきっかけとするためです。過度に厳密・緻密に行う必要はありません！</p>
<p>ふじさわ未来課題（重点課題）の実現イメージ</p>	
<p>▼ 未来課題が実現されている状態</p> <ul style="list-style-type: none"> ・挨拶をすることで、知り合いになって、安心感が得られたり、困っているときに自然に助け合えること。 ・ ・ 	<p>④書き出した内容を参考に話し合い「実現イメージ」の表現を作成してみる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員のセンスで魅力的な表現に ・マイナス表現はプラス表現に ・末尾は「〇〇なこと（状態）」に統一 ・出来るだけ数は絞る！（複数もOK）

5. 検討活動の例（2）

－目標・指標・活動シートより－

まちづくり目標

1. みんなで守る・繋がる安全のまち
2. 地域の支え合いで子どもが危ない場面に合わないまち

- ⑤「実現イメージ」から「まちづくり目標」フレーズ作成
- ・要素を分解してみる。複数のものを組み合わせてみる
 - ・地域や領域らしさにこだわってみる
 - ・複数になってもOK（出来るだけ絞る！）
 - ・記述例：
「〇〇なこと（＝状態）から～な
▲▲（＝対象（まち、暮らし、子ども…））」

まちづくり指標

主観指標（意識調査など）

- ・〇〇地区の夜道で危ないと感じた人の割合
- ・子どもや高齢者が危ないと感じる箇所数
- ・

客観指標（統計データなど）

- ・地域内での子どもの交通事故件数
- ・
- ・

- ⑥“気づき”や“深掘り”も参考に、「まちづくり目標」の実現状況を確認するのに相応しい指標を幅広く考えてみる。
バランスよく、たくさん列挙！

まちづくり活動

- 「昼間に地域にいる人の地域防犯意識の向上」
- 「歩行者の夜道の安全確保」
- 「子どもとお年寄りの安全な移動支援」
- 「車も自転車も歩行者もヒヤリ・ハットをゼロ」
- ⋮

- ⑦「まちづくり目標」の実現や、「まちづくり指標」の改善のために想定される活動を通じて“達成すべき状況”を列挙。
- ・この段階（基本計画）では“達成すべき状況”を列挙しておく。
 - ・現実の事業や活動に引っ張られないようにする（「目標」や「指標」から考える）。
 - ・「誰が」「誰に・何に」「どのように」「どうする」といったことを考えてみる。
 - ・具体的な事業提案にならないように注意。（具体的な事業は実施計画で検討します。具体的な事業が“達成すべき状況”を先に検討しておきます）

本日取り上げた重点課題に対して設定した「まちづくり目標」「まちづくり指標」「まちづくり活動」を、いくつかのグループから発表していただきます。

今日の検討活動のやり方を参考に、他の重点課題に対しても、検討をしてみましょう。

地域力・市民力・行政力の連携で検討を進めていきます。細かい集約作業、表現作成、隙間の補充、測定可能な指標化、地域間の全体調整…などは、行政力の出番！



今後の予定



◆ 目的

「まちづくり指標」の現状値を確認することで、置かれている現状を把握する

◆ 方法

既存の統計データや、市民アンケート調査、新たなデータ収集等で指標の現状を把握する

◆ 目的

- ・ 藤沢市で活動している実感として、「まちづくり指標」の値がどこまで改善したら、藤沢市や各地区が良くなったといえると思うかを調査する。
- ・ その値を集約することで、関係者や実務家がどのように考えているかを、お互いに共有し、共通の目標として設定する。
- ・ 実際に改善するには、誰の役割が期待されると思うかについても調査し、共有する。

◆ 方法

調査内容

- ・ 藤沢市で活動している実感から、「まちづくり指標」について数年後に実現して欲しい値（めざそう値）、誰が改善の役割を担っていると思うか（役割期待値）をお聞きする。
- ・ 「めざそう値」は、現状値の傾向などを参考に回答。
- ・ 「役割期待値」は、自助・共助・公助などの観点について、5段階で回答。加えて、具体的にどのような役割が期待されるかについて、記述してもらう。

対象者

- ・ 各「課題」に携わっている方
- ・ 100人委員会委員、地域経営会議の関係者
- ・ 市役所職員

分析方法

- ・ めざそう値は、平均値（または中央値）を算出。
- ・ 13地区ごとのデータ、全市のデータ、対象者による違いなどを併記して情報提供をする。

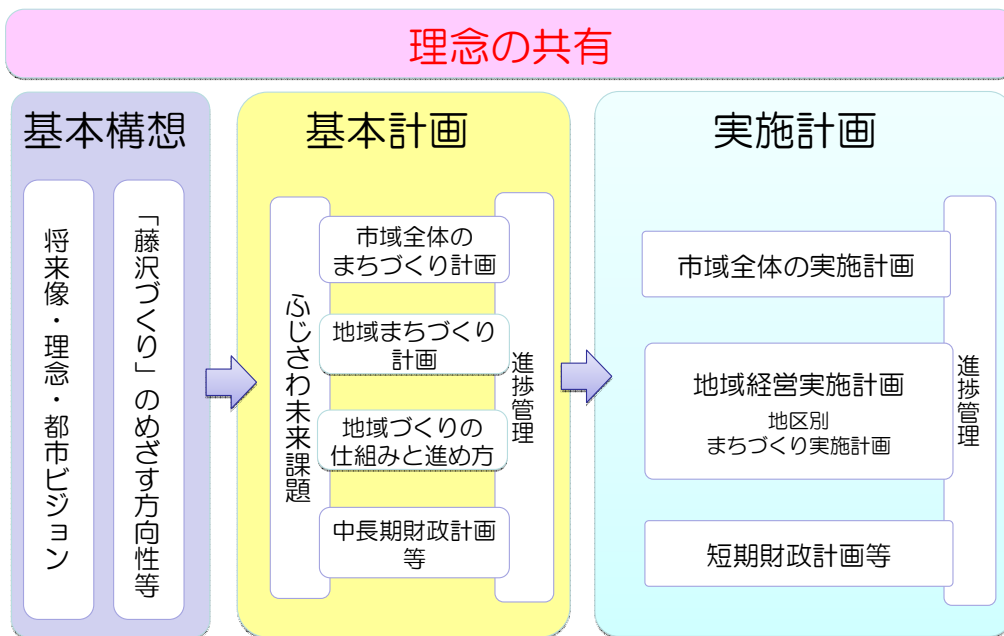
◆ 目的

(次の段階で) 実施計画を策定する際の基本情報として活用

◆ 方法

- ・ 地区の特性・魅力などの解説。
- ・ 「ふじさわ未来課題」「まちづくり指標」などの現状や傾向について解説。
- ・ 各地区ごとの考え方などを整理し、実施計画（13地区別まちづくり実施計画）に繋げる

「ふじさわ未来課題」の実現を目指して、具体的に“実施”をするための計画を策定する



- (1) 市域全体の実施計画
- (2) 地域経営実施計画
(13地区別のまちづくり実施計画)
- (3) 短期財政計画 (3年)



何を実施すると良いかを、地区ごとに戦略的に検討する。その結果は「まちづくり指標」で評価しながら進めていく

ふじさわ未来課題（重点課題）

No

めざす方向性

No

“気づき”▼データベースや発言集から気になった点

キーワード

気づき

データベースや
発言集を検索

気づきの深堀
(場面・原因・背景)

“気づき”は
どういう場面で起きているか？
どういう原因・背景があるか？

ふじさわ未来課題（重点課題）の実現イメージ

▼ 未来課題が実現されている状態（〇〇なこと）

まちづくり目標

まちづくり指標

主観指標（意識調査など）

客観指標（統計データなど）

まちづくり活動